発寒ひかり保育園だより

2019年
10月号

巻頭言

「お～きくな～れ」と果樹の苗木にお祈りする子どもたち。先日、五〇周年記念植樹祭で、子どもたちがハスカップやブルーベリーなど五種類・一二本を各ファミリー毎に園の花壇に植えました。開会式では北海道森と緑の会の中島課長さんと私からの、木は人が生きていくのにとても大切なものだという話に、子どもたちは「えー」と驚き、真剣に聞いてくれました。

さて、去年の八月、当時中学生のスウェーデンのグレタ・トゥンベリさんは、気候変動の危機に、大人たちが行動を起こさないことに我慢できず、立ち上がりました。毎週金曜日、学校を休んで国会議事堂の前で地球温暖化対策を訴え続けました。この勇気ある行動をＳＮＳで知った、世界中の若者たちも動き始めました。

九月二三日、米国ニューヨークで開かれた国連の気候行動サミットでは、グレタさん（一六歳）の演説が最も注目を集めました。

新聞記事では「『私たちはあなたたちを見ている』から始まった。各国代表団の拍手に、にらみつけるような視線で答え、七秒間の空白。そして、『すべてが間違っている。私はここにいるべきじゃない。海の向こうの学校に戻るべきだ』。自らの『夢』や『子どもらしい時期』を奪われたことへの不満をぶつけた。『まさにここで、まさにいま、私たちは一線を引いた。世界は目覚めつつある。そして、変化は起きつつある。あなたたちが好むと好まざるとにかかわらず』終始、怒りに震えた声だった」とのことです。（裏面に内容）

この演説の三日前、世界一六〇か国以上、四〇〇万人以上の若者もデモに加わりました。米国ニューヨークでは、市が参加者の休校を認めました。しかし、日本では、政府だけでなく、若者や学校の先生たちも反応は鈍かったとの報道がありました。

子どもたちの幸せな未来のために、私たち日本の大人にも突きつけられている大きな問題です。

園長　吉田　行男

気候危機　16歳、大人への怒り

「子どもたち見捨てる道選ぶなら許さない」

温室ガス対策 鈍い主要国

77カ国「2050年 実質ゼロ」

16歳の声は、大人たちへの怒りで震えていた。

スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさん。昨年8月、同国議会前で一人で「学校ストライキ」を始めた。多くの若者がグレタさんに続き、今月20日には日本を含む160カ国以上で400万人以上がデモに加わった。

そして迎えた23日の気候行動サミット。グレタさんは各国政府代表をにらみつけ、拳を振りかざし、強い口調で責めた。

「間違ってる。私はここにいるべきじゃない。海の向こうの学校に戻るべきだ」

国連で最も広い総会議場に声が響き、演説は続く。

「あなたたちは私の夢を、子ども時代を、空っぽな言葉で奪ってきた」

「苦しんでいる人たちがいる。死にゆく人たちがいる。生態系は破壊され、多くの種の絶滅が始まっている。そして、あなたたちはお金の話や、終わりなき経済成長のおとぎ話ばかり」

グレタさんがこれまでの演説で度々批判してきたのは、科学が危機感を伝えてきたのに、政策を決める権力者が見て見ぬふりを続けてきたことだ。

この日も「科学は30年以上にわたり、極めて明白だった」とし、「あなたたちは私たちを見捨てている」と痛烈に非難した。

5分ほどの演説の間、グレタさんは何度も椅子から身を乗り出し、マイクに口を近づけた。

「子どもたちはあなたたちの裏切りに気づき始めている。もしあなたたちが私たちを見捨てる道を選ぶなら、私はこう言う。絶対に許さないと」

グレタさんは直後に近くのビルで会見に臨み、そこでも大人への怒りをあらわにした。「子どもの権利条約ができて30年、世界のリーダーたちは私たちの権利を守るという約束を破り続けてきた」

グレタさんらが取った策は、国連子どもの権利委員会への救済の申し立てだった。8～17歳の12カ国の少年少女16人が、「気候危機は子どもたちの権利の危機だ」と訴えた。

申立書は「産業革命以前より（世界の平均）気温は1・1度上昇し、地球は壊滅的な結果をもたらす転換点に近づいている。これは事前に予測できていたことだ」と指摘。「子どもは肉体的、精神的に、気候危機による脅威に最もさらされやすく、大人たちよりも大きく、長期にわたる負担がかかる」と訴えている。（ニューヨーク＝香取啓介、藤原学恵）

ニューヨークで23日、国連本部に到着し取材を受けるトランプ米大統領（左手前）を見つめるスウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさん＝ロイター

ニューヨークでの国連気候行動サミットで23日、演説する環境活動家グレタ・トゥンベリさん＝AFP時事